

WEEKLY SIGNAL

平成27年10月23日(金) 1296号

来週の市場とレート予想

上田八木短資株式会社

	10/26 (月)	10/27 (火)	10/28 (水)	10/29 (木)	10/30 (金)
無担保O/N	0 . 0 3 0 % ~ 0 . 1 2 5 %				
銀行券	+ 100	ト ン	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政他	+ 6,000	+ 1,000	△ 1,000	△ 3,000	△ 1,000
資金需給	余 6,100	余 1,000	不 1,000	不 4,000	不 2,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)			交付税特会借入・償還 国債発行(40年)	
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,800 CP等買入 △ 700 社債等買入 △ 100				
オベスタート	共通担保(全店) + 3,300	国債買入 + 12,000 国庫短期証券買入 + 15,000			
(日本)	金融システムレポート別冊「マクロ・ストレス・テストのシナリオ設定について」	企業向けサービス価格(9月)		鉱工業生産指数(9月) 対外対内証券売買(前週分)	日銀金融政策決定会合 経済・物価情勢の展望 黒田日銀総裁記者会見 CPI(全国9月・ 東京都都区部10月) 完全失業率(9月) 家計調査(9月) 有効求人倍率(9月) 住宅着工統計(9月)
(海外)	米 新築住宅販売件数(9月)	米 FOMC(28日まで) 米 S&P/ケース・シャー住宅価格 指数(8月) 米 消費者信頼感指数(10月)	米 FOMC、政策金利発表 米 MBA住宅ローン申請指数 (23日終了週)	米 7-9月GDP 米 新規失業保険申請件数 (24日終了週) 欧 ユーロ圏景況感指数(10月)	米 個人消費支出・所得(9月) 米 シカゴ製造業景況指数 (10月) 米 サンフランシスコ連銀総裁講演 米 ミシガン大学消費者マインド 指数(10月確定値) 欧 ユーロ圏失業率(9月) 欧 ユーロ圏CPI(10月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.075 ~ 0.120
SPOT 2M	0.118 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.135
SPOT 6M	0.130 ~ 0.150

＜インターバンク＞

今週の日銀当座預金残高は週初243兆円台から始まり、その後は国債発行等の不足要因があったものの、日銀による国債・国庫短期証券買入オペ等潤沢な資金供給により、241兆～244兆円台で推移し、週末には244兆700億円となった。
無担保コールON物は概ね0.074～0.078%で取引され、加重平均金利は3日積みとなる23日にはやや強含み0.077%となったものの、その他は0.076%となった。ターム物は、1W物が0.11%台後半で取引された。19日に公表された日銀地域経済報告では全国9地域の景気情勢判断を前回調査(7月)から据え置いた。輸出や生産面に新興国経済の減速に伴う影響などがみられるものの、設備投資は緩やかな増加基調であり、個人消費も底堅く推移していることなどから全ての地域で「緩やかに回復している」、「回復している」等の判断を維持した。来週の予定は国内では金融政策決定会合(30日)、経済・物価情勢の展望(同)、9月CPI(同)、海外ではFOMC(27～28日)、米7～9月期GDP(29日)が挙げられる。

＜CP＞

今週の入札発行額は約6,700億円で、期落ち額約3,100億円(金融機関・ABC除く)を大幅に上回った。鉄鋼やカード会社で大型の案件があったため発行額が膨らんだ。
a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.070%台前半～0.080%台後半で推移した。
現先レートの中心は、0.060%～0.100%程度で推移した。来週の期落ち額は約12,300億円程度となっている。期明けの発行が膨らまない状況が続いており、発行量が多くなる月末の発行額が注目される。

＜TDB＞

22日に国庫短期証券3M第566回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.0037%(前回債△0.0037%)、平均落札レートは△0.0044%(前回債△0.0055%)と前回債から利回りに大きな変化はなかった。セカンダリーは3Mで△0.002%近辺の出合い。6Mは目立った出合いは見られず、1Yは△0.054%近辺の地合いであった。来週29日に3Mの入札が行われる予定である。

＜レポ＞

足許GCは週初短国・国債買入オペが合計2兆7千億円オファーされ、先週末比レート低下の0.065～0.07%台での出合い水準から始まった。その後は業者のファンディングニーズが強いことを背景に0.06%台～0.08%近辺で推移した。また短国3M・2Y債の入札である22日には0.08%台後半までレートが上昇した。週末にも短国・国債買入オペが合計2兆7千億円オファーされ、レートが低下し0.06%台の出合いとなり越週した。
SCは10年336回債がO/N物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。また20年154回債が再発行日エンド物でネガティブレートでの出合いが見られた。5年債は124・125回債、10年債は327・328・329・333・339・340回債、20年債は151・152・153・154回債に引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。